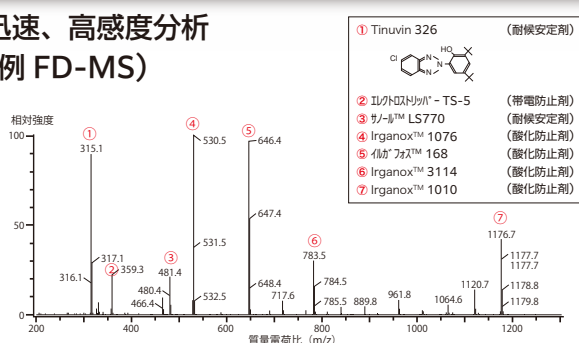


樹脂添加剤の総合分析

(株)三井化学分析センターは長年の経験、知見から添加剤分析を行っている。
 多くの標品および分析データベースを元にした迅速、高感度な定性・定量分析ができる。
 TOF-SIMS、ナノ IR 分析により、樹脂中の添加剤分布を把握することができる。

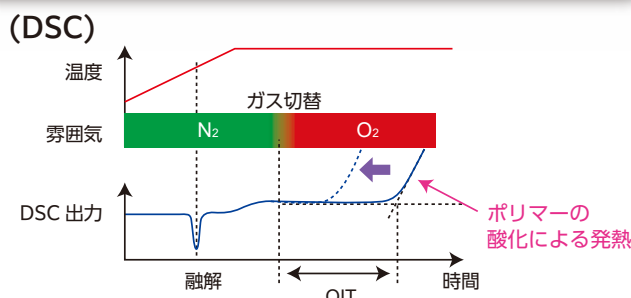
▶ 定性・定量分析

迅速、高感度分析
 (例 FD-MS)



多くの標品および分析データベースを元にした
 迅速、高感度な定性・定量分析

▶ 酸化誘導時間(OIT)



酸化劣化への耐性を相対比較する簡便な手段
 光、熱、水分への暴露により添加剤の有効量が減ると OIT が短くなる

組成

樹脂添加剤の総合分析

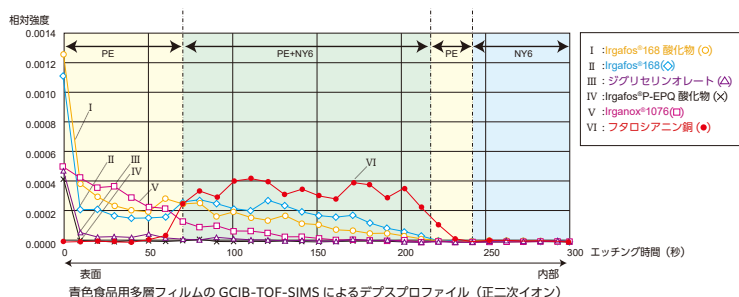
経時変化

分布

▶ 樹脂中の添加剤分布の分析

① 深さ方向分析 (TOF-SIMS)

試料：多層フィルム

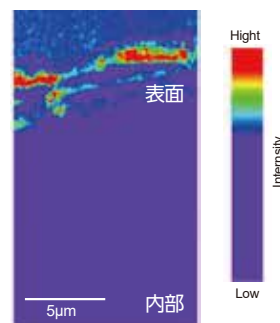


検出添加剤：イルガフォス 168、ジグリセリンオレート、P-EPQ、
 イルガノックス 1076、フタロシアニン銅
 ブリードアウト：168 や P-EPQ、ジグリセリンオレートは
 表面ブリードアウトが顕著、1076 の
 ブリードアウトは少ない
 そ の 他：フタロシアニン銅は PE/NY6 層に存在し、NY6、
 PE それぞれの単独層には存在しない

② 浸込み分析 (ナノ IR)

試料：可塑剤浸込みポリスチレン

可塑剤由来の吸収強度分布の
 イメージング像 (断面)



ポリスチレン板表面から 2 μm 程度まで
 可塑剤が侵入していること、表面に近い
 ほど可塑剤濃度が高いこと、また偏在し
 て分布していることがわかる